秋田魁新報　2021年10月13日付　県南

ロボット競技会東北大会

ピンポン球"宇宙"へ運べ

湯沢市、小中高生が熱戦

小中高生がチームを組み、プログラミングした自作ロボットの性能を競う「宇宙エレベーターロボット競技会東北大会」が、湯沢市役所市民ロビーで開かれた。県内小中高生の計10チームが参加し、熱戦を展開した。

宇宙エレベーターは、地球から約3万6千キロ上空の静止衛星まで人や物を運ぶ乗り物のこと。実現のための技術開発に向けたコンテストが国内外で行われている。

東北大会は3日に開催。ロボットをひも伝いに上らせ、高さ2・5㍍の位置にある宇宙ステーションに見立てた容器内にピンポン球を運ぶリージョナル部門と、球の持ち帰りを加えたグローバル部門の2部門で行われた。制限時間は5分で、小学生、中学生、中高生でそれぞれチームを組んで運搬数を競った。

ロボットはレゴブロックで組み立てたもので、小型コンピューターやモーターを搭載。プログラミングで制御し、球を自動で運搬する仕組みだ。出場者はロボットがプログラム通りスムーズに動くよう、真剣な表情で見守っていた。

グローバル部門は、11月にオンラインで開かれる全国大会の予選となる。全国大会への出場を決めた湯沢翔北高3年生のチーム「翔北昇降機1」の佐藤忠さんは「プログラムの誤差でうまく動かないところもあった。本番を意識した練習を重ね、全国大会にはさらに気を引き締めて臨みたい」と話した。

東北大会は毎年湯沢市で開かれ、今年で5回目。湯沢雄勝地域の自治体や商工団体などでつくる実行委員会の主催。

（湊文香）

成績は次の通り。

▽リージョナル・小学生部門　①YDK②流れ星③「M」3人組（以上東成瀬）

▽リージョナル・中学生部門　①湯沢南中学校科学部（湯沢南）②中学生チーム（東成瀬）

▽リージョナル・中高生部門　①加賀谷II号②SK−1③加賀谷I号（以上由利工業高）

▽グローバル・中高生部門　①翔北昇降機1②翔北昇降機2（以上湯沢翔北高）

プログラミングをした自作ロボットの性能を競った大会

©秋田魁新報社